学校給食だより　秋田っ子給食　NO－96

公益財団法人　秋田県学校給食会

四ツ小屋小児童 菓子販売、笑顔で接客
収穫米使用、新たな味も

秋田市の四ツ小屋小学校（石井麻貴校長）の5年生36人が10日、自分たちで収穫したコメを使ったお菓子を同市のビフレ御野場店で販売した。児童が元気に接客し、多くの買い物客が買い求めた。

同校は地元農家からコメの栽培について学んだり、田植えや稲刈りを体験したりして、農産物の6次産業化の流れを学習。地元の菓子店「中野屋」（中野彩子社長）の協力で2016年から、収穫したあきたこまちの米粉を使ったフクロウ形もなかサブレ「四ツ小屋四色幸福朗」を販売してきた。毎年5年生が中心になって、新商品のアイデアを出し、販売を体験している。

児童が販売した四ツ小屋幸福朗

今年はオレンジ色のたこやき味、緑色のアップルタルト味など4種類を新たに製造。プレーン味と合わせて計5個セット（500円）で販売した。

児童は接客する係と入りロドア付近で買い物客に声をかける係を交互に体験。「いらっしゃいませ」「四ツ小屋幸福朗はいかがですか」などと元気な声で呼びかけていた。

購入した秋田市四ツ小屋の公務員藤原正人さん（48）は、「毎年発売されるのが楽しみ。四ツ小屋小卒業生の息子と一緒に食べたい」と話した。

販売を体験した齊藤羽さん（11）は「お客さんの顔を見ながら販売できて楽しかった。大きな声と笑顔で接客するのを頑張った」と語った。

今年の5年生が開発に関わった四ツ小屋四色幸福朗は中野屋の空港ロード店（秋田市四ツ小屋）と土崎駅前店（同市土崎港）で1年間販売する予定。（大谷好恵）　（秋田魁新聞　令和4年12月15日(木)より一部抜粋）